

## ② 圏域の将来像について【9ページ】

1	鈴木委員	<p>圏域の資源（自然、広大な土地、支え合う精神）を共有の財産として認識し、圏域で協働して支え、つなぎ、発信することで地域の魅力を向上させていく。それにより地域外との交流拡大もはかる。</p> <p>圏域全体で、子供に地域の魅力を感じさせ、郷土に誇りをもてる子供に育てる、郷育を目指す。</p>
2	瀧波委員	<p>現在、村上に住んでいる私共中高年はもとより、若い人の都会への流出を防ぎ、尚かつ若い人が定住し、子育てし易くする為の仕事の充実、教育の充実が大切と考えます。</p>
3	本間委員	<p>合併により広域の生活圈（地位条件）となった村上市、多くが山村の関川村、日本海上の粟島浦村は人の交流が制限され易い。1市2村としての共生ネットワークを考えると経済的効果の見える連携は容易と思うが、ここから更に強化するとなると、市村の枠を取り払い、一共同体との考えのもと目指すべき姿を求めたい。</p>



## ③ 具体的な連携事業について

## 生活機能の強化

## (1) 医療

1	佐々木委員	P11	<p><b>【村上・岩船地域医療懇談会事業】</b></p> <p>地域医療懇談会は、当時は実施されていなかった平日夜間の救急医療体制整備を目的として、11年前に村上市長を会長に、村上市岩船郡医師会長を副会長に設置されました。村上市、関川村、栗島浦村から人口規模に応じた事業費を持ち寄り、毎年「村上・岩船地域の医療を考えるフォーラム」を開催してきました。テーマとして在宅医療、終末期医療、うつ病、骨粗鬆症、救急車の適正利用などを取り上げ、会場の村上市ふれあいセンターには、例年300人から500人が参加する恒例イベントとなりました。平成27年度は第11回目を迎え、8月22日（土）に「あなたのお酒は大丈夫？～適正飲酒の生活習慣を築くために～」を取り上げ開催予定です。</p> <p>さて、当地域では地域医療体制整備が最重要課題となっています。平常時のみならず、災害時においても、基幹病院である厚生連村上総合病院の活性化無くしては、地域住民の健康を守ることは不可能です。医師不足が深刻な当地域では、住民自らが積極的・主体的に病院を守り、支える姿勢を内外にしっかりと示すことが重要です。「村上総合病院活性化事業」として、医師と地域住民が手を取り合って、より良い地域を築いて行くことを目指す活動を期待します。</p>
2	佐々木委員	P13	<p><b>【自殺予防対策推進事業】</b></p> <p>関川村は先駆けて自殺予防対策に積極的に取り組み、成果を出していますが、村上保健所管内全体でみると平成16年から25年の10年間に273人の自殺が有り、人口10万対では36.5人と、県内13保健所中ワースト3位です。また、新潟県の平均寿命を市町村別に比較すると村上市男性が県内で最も短命です。新潟県男性平均寿命79.5歳に対して、村上市78.3歳、関川村79.1歳、栗島浦村79.5歳です。一方女性は、県平均が87.0歳に対し、村上市が87.0歳、関川村87.1歳、栗島浦村87.0歳とほぼ平均的な結果です。男性が短命な原因の一つに、男性の自殺率の高さが影響しています。しかしこの重大な健康課題についての認識が、まだまだ住民には十分ではありません。</p> <p>豊かな自然と食に恵まれ、伝統を重んじ、暮らしやすい県北という印象とは相反する厳しい現実にもっと注目し、人と人のつな</p>

			がりを強める地域作りが必要です。そして、働き盛り男性、高齢者、そして最近では若年者の自殺も増加傾向にあることを踏まえ、各年代に応じた効果的な事業を要望します。
--	--	--	---

### (3) 教育

1	秦 委員	P19	<p><b>【図書館事業】</b></p> <p>私が所属している村上市図書館協議会は、元々広域の連携を目指して運営されているので、基本的には中央図書館を中心に、各職員の努力で上手く連携運営されていると感じている。ただ不足しているのは職員と予算で、これはどの事業でも同じで致し方ないのか。</p>
2	鈴木委員	—	<p><b>【新規提案】</b></p> <p>村上市で行っている郷育会議（学校と地域を結ぶオープンセッション）を連携村と共に行う。</p>

### (4) 産業振興

1	瀧波委員	P22	<p><b>【岩船米販売促進事業】</b></p> <p>多岐に渡り連携出来るとしたら素晴らしいと思うが、目的、目標をしぼるとしたら農業（岩船米）と観光（村上市・関川村・粟島浦村）に重点的に力を集中させたい。スケールの大きな事業をしたい。</p>
2	鈴木委員	P23	<p><b>【林産物等の物流低コスト化事業】</b> (事業内容追加)</p> <p>バイオマスのエネルギー利用（熱）を地域全体ではかる。</p>
3	松浦委員	P24	<p><b>【広域観光ルート開発事業】</b></p> <p>「観光振興の推進」では、二次交通の充実も検討してもらいたい。(インフラの整備)</p> <p>圏域内の観光関係者の情報交換会、講習会の開催。</p>
4	瀧波委員 (再掲)	P24	<p><b>【広域観光ルート開発事業】</b></p> <p>多岐に渡り連携出来るとしたら素晴らしいと思うが、目的、目標をしぼるとしたら農業（岩船米）と観光（村上市・関川村・粟島浦村）に重点的に力を集中させたい。スケールの大きな事業をしたい。</p>
5	鈴木委員	—	<p><b>【新規提案】</b></p> <p>農林業へのキャリア教育の推進</p> <p>新潟県の林産材の半分を産出している地域として後継者を育てる。</p>

## 結びつきやネットワークの強化

1	鈴木委員	—	<p>【新規提案】</p> <p>地域内外の住民との交流・移住促進</p> <p>グリーン・ツーリズムを通じて地域内外の子供たちに地域体験を行い、相互理解を深め連携をはかる。</p>
---	------	---	---

## その他のご意見

1	秦 委員	<p>定住自立圏を確立するためには、何としても雇用の拡大と多様性だと考える。働いて収入を得る場があって初めて定住自立につながる。何としても1市2村が連携をして企業の誘致や産業の育成拡大に尽力を注ぐのが先決だと感じている。</p>
2	本間委員	<p>現状体制が100%良しではないと思うのですが、勉強不足で不備、不足の部分を捕える事が出来ず、具体的に問題提起でき兼ねますが、圏域隅々まで連携事業が住民全てが平等に享受される事を中心に意見を出したいと考えます。</p>
3	松浦委員	<p>他地域との違い、独自性のある取組みを検討してもらいたい。</p> <p>他で行っている取組みを実施しても同じ内容ではこの地域の人口減少は改善されないと思う。</p>